

別紙

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名称： コスモプランニング有限会社	所在地： 長野市松岡1丁目35番5号
評価実施期間： 平成30年7月4日から平成30年10月10日まで	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） B16021、B18014、050482	

2 福祉サービス事業者情報（平成30年 7月現在）

事業所名： (施設名) 飯綱町立 さみずっ子保育園	種別： 保育所
代表者氏名： (管理者氏名) 町長 峯村 勝盛 園長 栗田 喜美江	定員（利用人数）： 90名（85名）
設置主体： 飯綱町	開設（指定）年月日： 平成28年11月28日
経営主体： 飯綱町	
所在地：〒389-1206 長野県上水内郡飯綱町大字普光寺170番地4	
電話番号： 026-253-8800	FAX番号： 026-253-5500
ホームページアドレス： http://www.town.iizuna.nagano.jp/kosodate/hoikuen/samizukko/	
職員数	常勤職員： 19名 非常勤職員： 29名
専門職員	(専門職の名称) 名
	・園長 1名 ・管理栄養士 1名
	・保育主任 1名 ・子育て支援員 2名
	・保育士 28名 ・園バス運転手・添乗員 4名
	・保育協力員 3名 ・給食調理員 8名
施設・設備 の概要	(設備等)
	(屋外遊具)
・乳児室 … 1室 ・保育室 … 8室 ・遊戯室 … 1室 ・調理室 … 1室 ・事務室 … 1室 ・便所 … 5室	
・4人乗りブランコ ・ジャングルジム ・山形雲梯 ・8人用傘型のぼり棒 ・一方すべり台2台 ・3連鉄棒 ・木製ミニスライダー ・プレイハウス ・木製コンビネーション遊具 ・丸太砦	

3 理念・基本方針

○飯綱町保育理念

子ども達が現在(いま)を幸せに生活し、未来(明日)を生きる力を育てる保育の仕事に誇りと責任を持って、自らの人間性と専門性の向上に努め、一人一人の子どもを心から尊重し、子ども、保護者、地域に最善をつくします。

○飯綱町保育方針

- ①一人ひとりを大切にし、すべての子どもの発達を保障していきます。
- ②家庭としっかり手をつなぎ、共に協力し合って、子どもを育てていきます。
- ③一人ひとりの子どもを職員集団で見守り、発達を確かめ合っています。
- ④子どもの年齢や発達の状況に合わせて保育目標を持ち、計画を立て、見通しのある保育を行なっています。
- ⑤障害児保育を進めるにあたり研修し、保育内容の向上に努力します。
- ⑥地域と深くつながった保育園であることを目指し、未就園児体験入園等を積極的に取り組みます。

○飯綱町立3保育園保育目標

- ①健康で明るく生き生きと遊ぶ子ども
- ②自分のことは自分でやろうとする子ども
- ③友達と仲良く遊び、いたわりや思いやりの気持ちが持てる子ども
- ④ことばが豊かで正しく使える子ども
- ⑤身近な人や自然、物と進んで関わり、感性豊かに育つ子ども
- ⑥楽しく食事のできる子ども
- ⑦良いこと、悪いことが区別できる子ども

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

当さみずっ子保育園は飯綱町が運営する3保育園のうちの一つで、平成28年11月にこれまで運営してきた旧三水保育園と旧赤塩保育園が統合され、旧三水保育園敷地の現在地に新築・開設された。

当保育園の運営主体の飯綱町は平成17年10月1日、牟礼村と三水村の合併により町制が施行された。町は県の北部に位置し、人口約13,000人、標高約500メートルにあり、町内の飯綱東高原にはスキー場、湖、温泉施設、ゴルフ場といったレジャー施設がある。農業では全国のりんごの総生産の1パーセントを担う一大産地として、品質もトップクラスで、また、特Aランクに評価されている米も町が誇れる生產品の一つとなっている。

飯綱町に来て周りを見渡すと、思わず息を呑むような北信五岳を望む壮大なパノラマが展開されている。信州中野、飯山豊田、信濃町の各インターチェンジまで車で約15分、長野市北部の商業地、近隣の温泉、スキー場等の観光地も30分圏内に網羅されており、利便性の良い地でもあり、近年では移住する若い家族もおり、転出する世帯とほぼ同数で均衡が保たれているという。

当保育園のある普光寺地区は北信五岳の斑尾山から鳥居川にかけてのなだらかな丘陵地帯にあり、当保育園や隣接する三水小学校、長野県北部高校が更に一段高い場所にある。

当保育園の統合に際しては平成25年5月の「飯綱町教育環境あり方検討委員会」から旧三水保育園と旧赤塩保育園の統合新設についての提言があり、敷地の決定から、旧三水保育園の解体、新保育園の起工、竣工へと計画が推進された。この間、旧さみずっ子保育園に通う子どもたちは他の旧赤塩保育園、りんごっ子保育園、南部保育園での分散保育という形でほぼ1年を過ごした。

統合前の平成28年9月には新しい園の名称について公募したところ、多くの方から190点の名称が寄せられ、その中から統合保育園名称選定委員会等により選定された。選定理由は地域の三つ

の用水が旧村名になった歴史への大切な思いが、未来永劫続くよう「さみず」の名を残してほしいという地域の思いが尊重され、また、「さみずっ子」という言葉は明るい印象を受け、小学校などでも子どもたちのことをこの地域ではそう呼び、慣れ親しまれてきた背景があるという。

当園では町内の他の二つの保育園とともに、長野県が進めている「信州やまほいく認定制度(信州自然型保育認定制度)」の認定園として「豊かな自然と温かな地域の中で、子どもたちの”人生の根っこ”を育みます」という活動を推進しており、2ヶ所ある駐車場からは2,500坪近くの園庭と500坪に及ぶ建物が目に入ってくる。南西にはなだらかな飯綱山と急峻な戸隠山、北には斑尾山の山容と裾野に広がる森林やリンゴ畑を眺めることができ、園庭の大きなどんぐりの木などの木々の木陰で遊ぶことができ、大型遊具の他、砂場は砂と土の2ヶ所があり、木製の家、テーブル、椅子なども置かれ、様々な遊びができるようになっている。また、未満児用の園庭も作られ動植物に親しんだり、様々な自然から学び足腰を鍛え、地域の人々とも関わっている。更に、「わくわくスポーツタイム」や「英語遊び」などの経験を通して、生涯にわたる学習意欲や学習態度の基礎となる好奇心や探求心も培っている。

現在、当園には0歳児1名のつくし組、1歳児6名のれんげ組、2歳児10名のすみれ組、3歳児19名のたんぽぽ1組・2組、4歳児25名のこすもす組、5歳児24名のひまわり組の七つのクラスがあり、それぞれの発達段階に合わせて作成された、町立3保育園共通の平成30年度「保育課程(全体の計画)」の七つの「保育目標」に沿い、「健康で明るく生き生きと遊ぶ子ども」、「身近な人や自然、物と進んで関わり、感性豊かに育つ子ども」などの実現に向けて全職員が懸命に取り組んでいる。

また、当園では他の2つの町立保育園と協働しながら保護者のニーズに合わせ多様なサービスを提供しており、長時間保育や一時的保育、おひさま広場、障害児保育等を実施している。長時間保育は短時間利用者が時間外保育を必要とする際に利用するサービスで定期的に利用されている保護者がいる。また、一時的保育についても保護者の疾病・保護者の育児に伴う心理的、肉体的負担のリフレッシュ等による預かり保育を行うサービスで希望される方がいる。おひさま広場は未就園児と保護者対象に園開放及び子育て相談を行うサービスで5月から翌年2月にかけて実施している。障害児保育は保育を必要とする心身に障害を持つ子どもの保育を行うサービスで園児との遊びや給食を通して子ども同士の交流を行い心身の発達を促すという内容になっている。

当園も含めた町立3園では町の「保育基本方針」や「保育指針」・「保育方針」に沿い、共通の年間活動計画や合同の企画、職員の研修などを行い、町保育園全体として「子どもたちを真ん中に」均質のサービスを提供しようと、園内の環境づくりや地域の人々との連携、職員の資質の向上などに積極的に取り組んでいる。

5 第三者評価の受審状況

受審回数(前回の受審時期)	今回が初めて
---------------	--------

6 評価結果総評(利用者調査結果を含む。)

◇特に良いと思う点

1)園内外での多様な活動

当保育園は信州型自然保育(信州やまほいく)の認定を受け、自然保育に重点を置き保育に取り組んでいる。地域との協力で収穫体験を行う、園内で取れたドングリを栽培し近くの施設へ植樹をする、野菜や花をいろいろ栽培し、手入れ、収穫を体験するなど、自然と触れあう機会が多く、楽しさ、不思議さを感じながら、園児たちがのびのびと園生活を送っている。

園庭には大きなどんぐりの木などの木々が植えられ木陰で遊ぶことができ、大型遊具、ブランコ、鉄棒の他、砂場は砂と土の2ヶ所があり感触で遊びの違いを体験できる。木製の家、テーブル、椅子なども置かれ、様々な遊びができる環境が整っている。また、未満児用の園庭も作られ、五感を通して様々な感覚や知覚を得ている。園内廊下には滑り台、ロフト付き立体遊具、遊戯室にはボルダリング・トランポリンなどが設置され、ごっこ遊びや体を動かして遊ぶこともできる。

園庭では野菜(キュウリ、ナス、ピーマン、オクラ、枝豆、トウモロコシ、ブルーベリー、トマトなど)が植えられ、収穫数を数えたり、給食に使うなど、育てながら自然と触れ合い食の体

験もしている。野菜の栽培を通じて協力や異年齢児との交流も深まっており、年中児は地域の老人会の方々と一緒にさつま芋の苗植えをし、収穫も一緒に行っており、老人会の方々も交えて全園児で焼き芋大会も行っている。地域にある果樹園に行き、さくらんぼの収穫体験なども行っている。

当保育園では子どもたちが様々な事物とふれあう「直接体験」を重視し、「自然体験」と「生活体験」の両方にに基づき、「何を学ぶか」だけでなく「いかに学ぶか」という、主体的に問題を発見し正解を見いだすという視点で色々な学びを得ている。

2) 快適な環境づくりとゆとりのある職員配置

2,500坪近くの園庭と500坪に及ぶ園舎には飯綱町の木材を使い、冷暖房には地中熱を利用し年間通じて快適に過ごせる、ゆったりとした環境が整備されている。園舎はバリアフリーの平屋建てで異年齢の子供たちが行き来しやすく、交流が持てるようになっている。また、町立子育て支援センターを中心に妊娠・出産・保育についての支援が町として継続的に行われており保育のニーズについての予測が十分にされており、それを見越した保育士が予め確保されているので、職員配置にもゆとりが感じられる。

飯綱町産の木材を園舎全体に使い、落ち着いた、温かみのある環境が作られており、平屋建ての園舎にはテラスもあり、雨雪の日も濡れることなく園舎へ入ることができる。舎内は収納できる箇所が多くあり、保育室内に園児の行動の妨げになる家具、遊具がなく、室内空間を広く使っている。トイレは年齢に応じて使いやすく造られており、また、保育室の隣に設置されているので利用しやすく、職員の間も届きやすい。トイレ内には着替えなどを置く収納スペースも造られている。延長保育の保育室と兼用する絵本の部屋があり、多数の絵本が揃っていて週末には貸し出しも行われている。広い廊下と土間を仕切るように3歳以上児のクラスの前には絵本の棚とツールが置かれ、園児が自由に絵本を読める空間となっている。

また、当保育園では保育士、栄養士、調理員など、必要とする人材を余裕をもって確保しており、それぞれの職種における専門性を発揮するとともに、実践の場において子どもや保護者等と関わりつつ常に知識と技術の熟達に努めている。

3) 地域の様々な社会資源との交流

当保育園に隣接し小学校と高校があり、また、中学校も至近距離にあり、小学校の地域学習、中学校の家庭科授業、高校の保育実習、老人会とのさつま芋作りなど、地域の方々の交流の場が多く、また、それらの人々との関わりを大切にしている。

町3保育園共通の保育指針の6番目や保育目標の5番目として文書化されており、未就園児体験入園に取り組んだり、地域性を活かし身近な人や自然・物と関わり、感性豊かな子どもに育つように、地域の人々と積極的な連携を図り、地域社会での生活体験の場を作っている。

園を中心とした公共機関や名所旧跡などをイラストで描いたお散歩マップがあり、散歩中に挨拶をするなど、地域の人々と常に関わることができるようにしている。お年寄りとの世代間交流(サツマイモの苗植え、焼き芋大会)、おひさま広場(未就園児園開放)、小学生、中学生、高校生との交流(小学校訪問、職場体験、ボランティア受け入れ)、実習生の受け入れなどが実施されており、「信州型自然保育(信州やまほいく)」でも保護者や地域の人々と交流している。

また、年長組が近くの老人福祉施設を訪問し高齢者に踊りや歌を披露し、社会見学も兼ね施設の職員とも交流している。災害時にも近くの小学校や高校等との連携がとれるようになっている。地域の保護者や子ども等の生活に役立つ講演会や研修会等については町の教育委員会や子育て支援センターで実施しており保育園としても協力している。

4) 町の他部署との組織を横断した情報の共有

町と連携し、母子手帳交付時から保育の必要性を把握し、先々の入園予定を推測し、必要な職員数を割り出し、待機児童がないよう職員体制を予め整え、受け入れを行っている。また、一時保育も家庭の事情により受け入れを行っている。一時保育室も完備され、専門職員が保育を行っている。

また、町立3保育園が協働し、町の教育委員会と連携を密にしながらか通の保育課程(全体の計画)、各年齢に合わせた年間指導計画、食育指導計画、保健計画などを立て、すべての子どもが利用している間、安定した生活を送り、充実した活動ができるよう、柔軟に対応している。園長

会、保小連絡会等も定期的に関われ、課題の解決に努めており、町の子育て支援センターと連携し、施設開放による交流事業として「おひさま広場(未就園児の園開放)」を実施している。

更に、町の教育委員会の担当部署などと連携しながら町内のネットワークに参画し町の目指す「きめ細かな切れ目のない子育て総合支援」に公立3保育園合同で取り組んでおり、地域の共有財産として広く利用され、活用されるようにしている。

◇特に改善する必要があると思う点

1) 保護者等への理念、基本方針の更なる周知

保護者アンケートの「保育園の基本的な考え方(保育目標・保育方針)には納得していますか」という問について無回答という方が4割ほどあり、浸透度がやや浅いのではないと思われる。

また、保護者に向けては「保育園のしおり」や「園だより」などにも掲載し周知を図っているが、「保育園のしおり」と毎年度職員に配布される「運営計画」の中で共通するものは「保育目標(飯綱町立3保育園共通)のみであり、立派な「保育理念」や「保育方針」の影が薄いように感じられる。

今後、「保育園のしおり」にも「保育理念」や「保育方針」を掲載し、保護者や地域社会に対して町と連携しつつ町立3保育園共通の「保育理念」や「保育方針」、「保育目標」等に沿い、保育園の目的や存在意義、使命や役割等をより掘り下げ具体的に説明されることを期待したい。

2) マニュアルの整備

現在、当保育園ではマニュアルはないものの実際に稼働しており大きな支障となっていないが、実習生受け入れマニュアルやボランティア受け入れマニュアルなどの整備が求められる。

マニュアルはある条件に対応する方法を知らない者(初心者)に対して具体的な方法・行動内容を示し、教えるために標準化・体系化して作られるものであるため、各職員の行動の指針となり、全体に一貫性のある行動をもたらすことができるのではないと思われる。

組織に柔軟性をもたせる場合には、事細かに規定が存在すると実際の状況に合った活動にブレキがかかりかえって邪魔になることもあるため、あまり細かく定めないケースもあるが、実習生受け入れマニュアルを整備し実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化し、また、地域社会と保育所をつなぐ柱の一つとして更にボランティアの受け入れマニュアルを位置づけられたら良いのではないだろうか。

また、「他人の干渉を許さない、各個人の私生活上の自由」という意味のプライバシーについての規程・マニュアルも体系立て職員に周知・徹底されることが望まれる。保護者からの意見・要望、提案等については随時公表をしているようであるが、更に対応手順、記録、保護者への経過・結果説明、公表方法等を定めたマニュアルも作成し有効的に活用されることが望まれる。

3) キャリアパス的な制度の導入

職員の処遇について公立という立場から難しいかも知れず、また、保育職というある意味、実績考課が計りにくい職種ということもあるかもしれないがキャリアパス的な制度の導入について検討される余地があるのではないと思われる。

日々の保育準備、お便り作成などが時間外になることもあるらしく、保育士の仕事の大変さ、子どもを預かることの責任の重さを理解してもらえていないというもどかしさを感じている職員が少なからずいるものと思われる。

保育という専門職としてのキャリアパス制度を導入することにより研修内容が充実し、役職にもつきやすくなれば、保育士の社会的な認知のされ方も変化していくのではないだろうか。

個人個人の進む道が多様化し、将来の自分の姿が描きにくくなっている現在、年功序列、終身雇用が一般的であった時代から変わり、どの程度の習熟レベルに達すればどう昇進できるのか、自分のスキルと経験をどのように活かすことができるのかの目安があれば意欲的に仕事に取り組むことができるのではないと思われる。

将来を担う、若い福祉人材の確保という面からも検討されることを期待したい。

7 事業評価の結果（詳細）と講評

共通項目の評価対象Ⅰ福祉サービスの基本方針と組織及び評価対象Ⅱ組織の運営管理、Ⅲ適切な福祉サービスの実施（別添1）並びに内容評価項目の評価対象A（別添2）

8 利用者調査の結果

アンケート方式の場合（別添3-1）

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント

（平成30年10月 5日記載）

今回初めて第三者評価を受ける機会をいただきました。園内外での多様な活動、快適な環境づくりとゆとりある職員配置、地域の様々な社会資源との交流、町の他部署との組織を横断した情報の共有等を高く評価していただいた一方で、改善すべき課題も見えてきました。保護者等への理念・基本方針のさらなる周知、マニュアルの整備、職員の資質向上のためのキャリアパス的な制度の導入などご指摘いただきました。

評価を受けて保育士は、「改めてねらいや目標の大切さ、保育士としてあり方を見直す機会になった」と自身の保育を見直す機会となったことはもちろん、「今後マニュアルの活用に向けて職員で理解して取り組みたい」「クラスや全体で共通に理解しておかなければいけないことが明確になったので、見える化や事前準備を提示していくようにしたい」「運営など知らないことも多くあったので勉強したい」など、園運営に積極的に関わっていこうとする感想が多く見られました。私自身も4月より赴任し、正規職員や臨時職員等様々な職員がいる中、職員が一枚岩となって取り組むことができるよう「見える化」と「周知」に心がけ、特に、行事は、直後に反省をして次回や次年度の計画を作成するよう取り組んできました。ご指摘いただいた課題については、子どもの最善の利益を考え、よりよい保育の質をめざすべく話し合いや研修を積み重ね、今後も笑顔の保育を目指し取り組んでいきます。

最後になりましたが、コスモプランニングの皆様には、丁寧な説明と助言・建設的な評価をしていただきましたことに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。